

# 「晴れの国」を襲った大津波

東日本建設業保証株式会社  
建設産業図書館  
**江口知秀**  
Tomohide Eguchi

**岡** 山県は災害が少ないという。県域を四国山地と中国山地に挟まれているので、高い山々が盾となり、台風勢力を弱めるからだ。また、降水量一ミリの以上の日数が日本で最も少ないことから「晴れの国」をキャッチフレーズとして掲げている。

岡山県倉敷市南部の沿岸地域には、明治十七年（一八八四）の大津波による犠牲者を埋葬した千人塚がある。水島コンビナートの水島臨海鉄道水島駅で降りて、ほぼ真東に四〇分ほど歩くと広江山という丘陵の中腹に城郭のような石垣がある。その上の比較的ゆつたりとした敷地に五輪供養塔と石仏、そして合葬之碑が建てられている。

明治年間の岡山県域は、矢継ぎ早に水害に襲われた。明治四年の大洪水にはじまり、明治十三年の大洪水、明治十五年の津波、明治十七年の大津波、明治二十五年の大洪水、明治二十六年の大洪水、明治三十二年の洪水と、ほとんど間をおかず容赦がない。この中でも死者・行方不明者六五五人という最大の人的被害をもたらしたのが明治十七年の大津波だった。

『岡山県水害史』によると、この年の八月二十五日、現在の水島・玉島地域に台風が来襲し、午後十一時頃から東南の激しい風雨に見舞われた。しか

し翌午前〇時頃になると、台風の目に入ったのか風力が衰えた。ここに人々の油断が生じたのかも知れない。数分すると、風向きが南西に転じて、さらに勢いが増した。暴風雨が激浪を呼び、台風による高潮とあいまって堤防を崩し、人々は家屋もろとも波に飲み込まれ、一家全員死亡が二四戸、死傷者を出した家が二二六戸、被害総戸数二二二七戸という惨状となった。

事後、沿岸には夥しい遺体が漂着したが、そのうち二五六人の身元がわからなかった。千人塚は、これら寄り辺のない死者を弔うために、明治十八年に岡山県によって建てられた。

ところで、千年に一度と贈灸された東日本大震災の発生をうけて、倉敷市は平成二十三年七月二十二日に千人塚を県内では極めて異例の自然災害に関する史跡に指定した。災害の少ない地域の住民に過去の悲惨な歴史を知らしめるという趣旨は誠に結構であるが、その一方で県が「晴れの国」を掲げ続けることは、人々に誤解を与えかねない危険も秘めているとは、私の考えすぎだろうか。昨年夏、台風十二号が岡山県を直撃し、ネット上で「晴れの国」であるはずが…といった記述が散見された。どんなに雨が少なくとも、台風が来なくとも災害は起こるとき

は起こる。

少し前に平成の大合併で古来の地名が廃止され、瑞祥地名に取って変えられたことが問題視された。伝統の破壊であることはもちろん、土地の地勢や歴史を踏まえた命名がなされていることもあり、起りうる災害も地名から類推できる場合があるからだ。地域のイメージアップもよいが、安易な行政判断が先行し過ぎると、後世に禍根を残すことにもなりかねない。めでたいばかりが能じゃない。



千人塚合葬之碑

[交通]水島臨海鉄道 水島駅下車、徒歩約40分

※碑文の全文は日建連HPに掲載しています。